

2013年3月期第2四半期 決算説明会

第4次中期経営計画2年目 — “種まき”から“育成”へ
第2四半期は電子部材の出遅れを自動車関連、旅行でカバー
引き続き海外事業に注力し、収益拡大



決算説明会のアウトライン(目次)

第4次中期経営計画2年目 — “種まき”から“育成”へ

			頁
日新について	会社概要	代表取締役社長 筒井 雅洋	P.4
現在の日新	決算概要	第2四半期実績	P.10
		通期計画	P.17
これからの 日新	中期経営計画	進捗状況	代表取締役社長 筒井 雅洋 P.25
	中国物流の現状	執行役員(中国統轄) 鳥尾 省治	P.33

ハイライト ～ 計画未達も自動車関連等で前期比増益を確保 ～

第2四半期は、自動車関連は好調も電機・電子関連の落ち込み響き、計画未達

第2四半期：期初計画

- 売上高： 98,500百万円
- 営業利益： 2,650百万円

第2四半期：実績

- 売上高： 88,070百万円
(期初計画比10.6%減、前年比1.6%減)
- 営業利益： 2,026百万円
(期初計画比23.5%減、前年比31.1%増)

Point

- ▲ 完成車、CKD、自動車関連部品が想定以上の取扱いで収益に寄与
- ▲ 北米、欧州が大幅回復したほか、アジア、中国も順調に推移
- ▲ 旅行業が業務渡航を中心に伸長
- ▼ 中小型液晶は取扱いが大幅遅れ、ソーラー、液晶TVも低迷
- ▼ 日本での中国関連ターミナル事業が低調

通期計画は修正。電機・電子関連の回復、自動車現地生産への対応で増収増益を確保

通期：期初計画

- 売上高： 197,000百万円
- 営業利益： 5,300百万円

通期：直近計画

- 売上高： 179,800百万円 (前年比0.4%増)
- 営業利益： 4,200百万円 (前年比10.8%増)

Point

- ▲ 中小型液晶の荷動きが本格化
- ▲ 自動車の現地生産拡大への対応－生産部品輸送、設備移転の取り込み
- ▼ 中国経済減速、日中関係冷え込みによる日中間輸送の減少

日新について

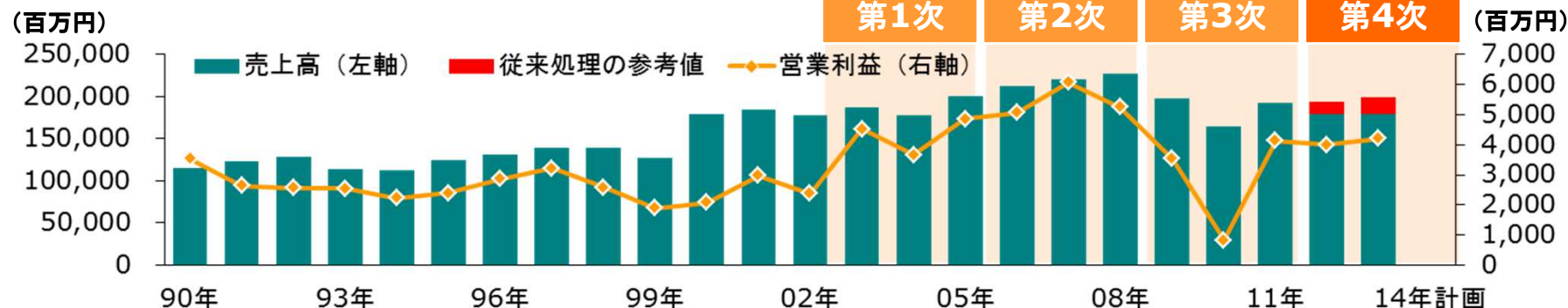
～「日々新たに」の“日新スピリット”で新商品・サービスを開拓～

日新の成長のあゆみ ～ アジア展開に強みを発揮 ～

国際物流の先駆者

自動車、家電産業等の海外進出とともに、事業を拡大

中期経営計画



※ 2012年3月期 会計方針変更、12年3月期以降の赤点線は従来处理の場合の参考値

国内

2001年

- 摩耶東物流センター建設

2007年2月

- 日新航空成田ロジスティクスセンター開設

2010年10月

- 羽田空港事務所開設

2006年11月

- 愛知日新設立

2009年4月

- 「堺ロジスティクスセンター」開設

2009年11月

- 「鶴見倉庫株式会社」の全株式を取得

2011年9月

- 「AEO認定通関業者」認定

1992年8月

- 中国に合弁会社
「上海高信貿儲実業有限公司」設立

2006年5月

- ベトナムに現地法人
「NISSIN LOGISTICS (VN) CO., LTD.」設立

2011年11月

- タイに合弁会社
「Best Cold Chain Co., Ltd.」設立

海外

1999年5月

- インドに合弁会社「NISSIN ABC LOGISTICS PRIVATE LIMITED」設立

2012年2月

- ラオスに現地法人「Lao Nissin SMT CO., LTD.」設立

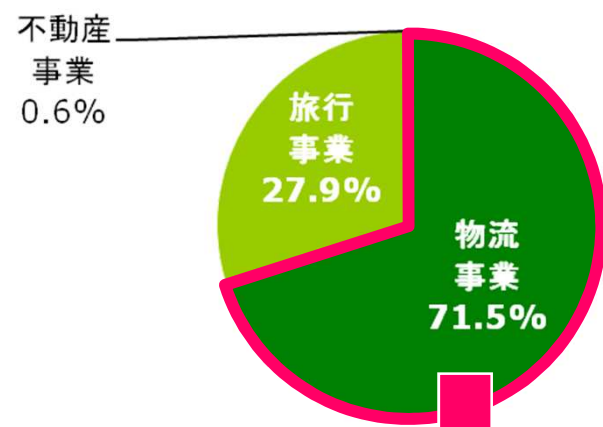
日新のビジネス ～ 物流事業を柱に3事業を展開 ～

		売上高 構成比(%)	事業内容
物流事業	航空貨物	71.5%	■ 海外23カ国におよぶグローバルネットワークで、高品質・安心のサービスを提供
	海上貨物		■ 国際複合一貫輸送のパイオニア 海上・航空・鉄道を自在に組み合わせ、 ドア・ドアサービスを提供
	港湾・倉庫		■ 東京、横浜、神戸、大阪で大手船社指定のCFS (17,400㎡)/CY(842,900㎡)を運営 ■ 横浜・大阪の港頭地区を中心に30数力所の倉庫
	国内		■ 共同配送、危険品輸送、鉄道輸送 ■ 構内作業
旅行事業		27.9%	■ 企業・団体の業務出張をトータルに サポート(業務出張は業界2位の実績)
不動産事業		0.6%	

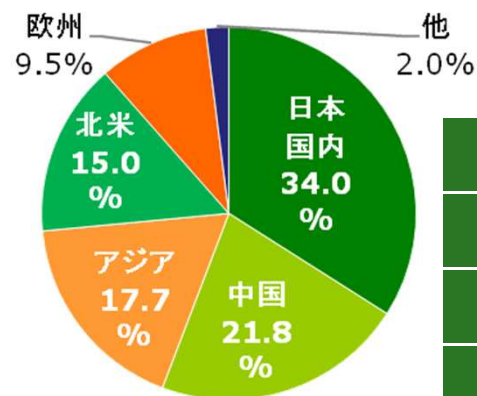
※売上高構成比は、2012年3月期決算数値

日新の事業構成 ～ 物流の約7割は国際物流 ～

連結売上高(2012年3月期)

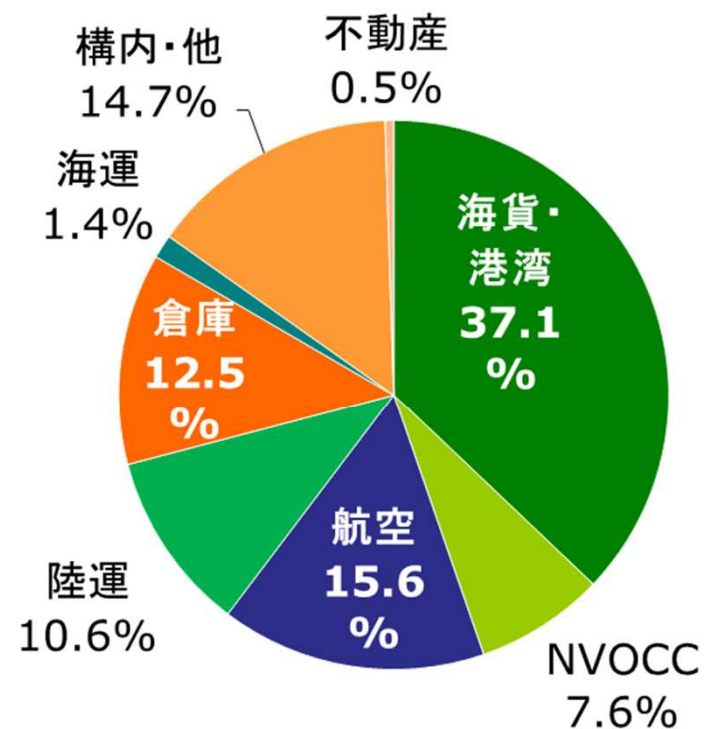


物流事業の内訳
国内・海外(輸出入地域別)



中国	電機、アパレル
アジア	自動車、電機
北米	自動車、電機、生鮮
欧州	電機、自動車

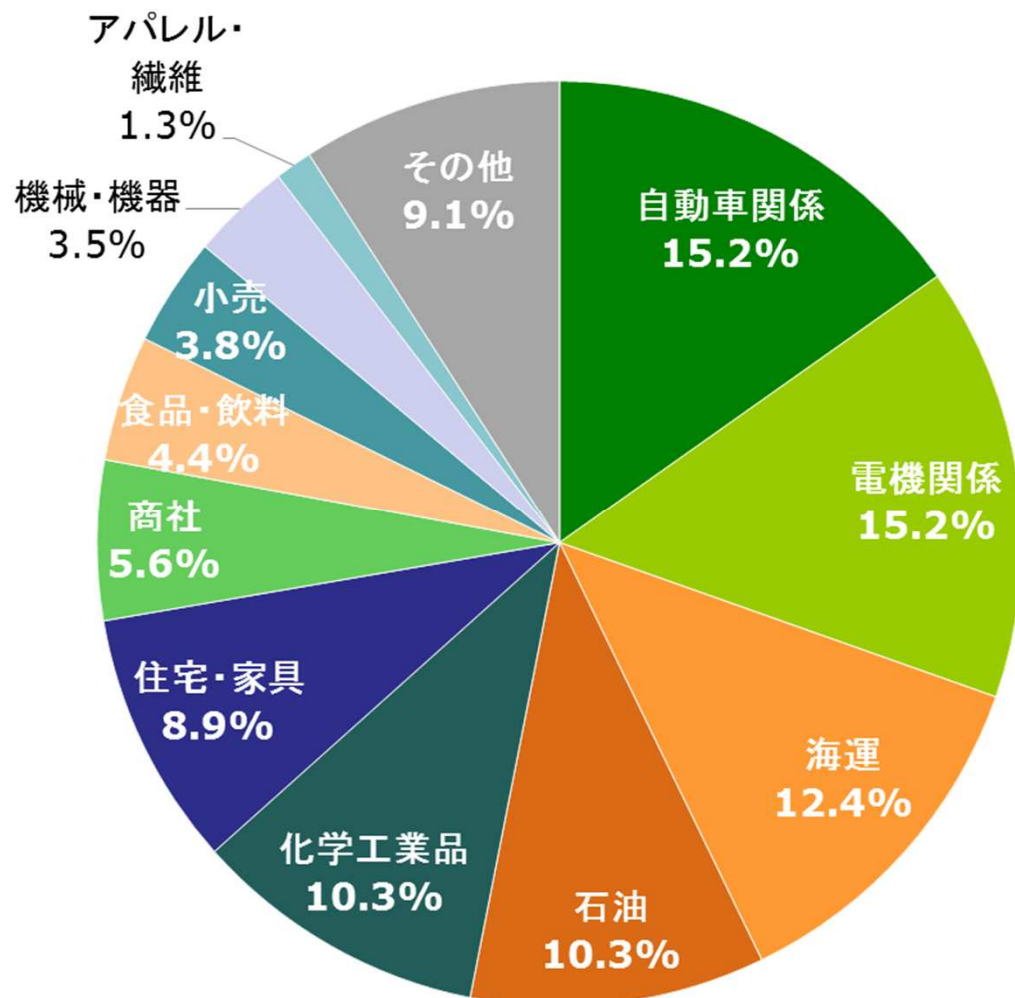
単体売上高(2012年3月期)



出典: 社内データより

顧客の状況 ～ 自動車・電機・石化など幅広い顧客層 ～

2012年3月期 顧客構成(単体、売上高上位100社)



顧客の特性

自動車・電機・石油化学を柱に住宅・家具からアパレルまで、幅広い顧客層

自動車

完成車・CKD輸出、部品輸出入

電機

電子部材航空輸出入、家電輸入、物流センター

石油化学

石油製品配送、構内作業

コンテナターミナルを運営する港湾事業者であり、海外船社も主要顧客(海運)

過去5年間、構成比では大きな変化はない

事業・顧客状況(売上高構成)

事業状況			
	航空	海上	倉庫・他
日本 (単体)	16%	45%	39%
北米	28%	25%	47%
欧州	22%	21%	57%
アジア	32%	34%	34%
中国	38%	44%	18%

顧客状況			
	自動車	電機電子	一般・他
日本 (単体)	15%	15%	70%
北米	32%	23%	45%
欧州	19%	43%	38%
アジア	37%	10%	53%
中国	7%	35%	58%

※売上高構成比は、2012年9月の社内集計値

2013年3月期第2四半期実績

2013年3月期 第2四半期実績

- 日本での電機・電子、中国関連の落ち込みを自動車関連と海外、旅行業が補い、計画未達ながら、営業・経常利益で前期比増益。当期利益は環境対策、株式減損で特損が発生。

(単位:百万円)

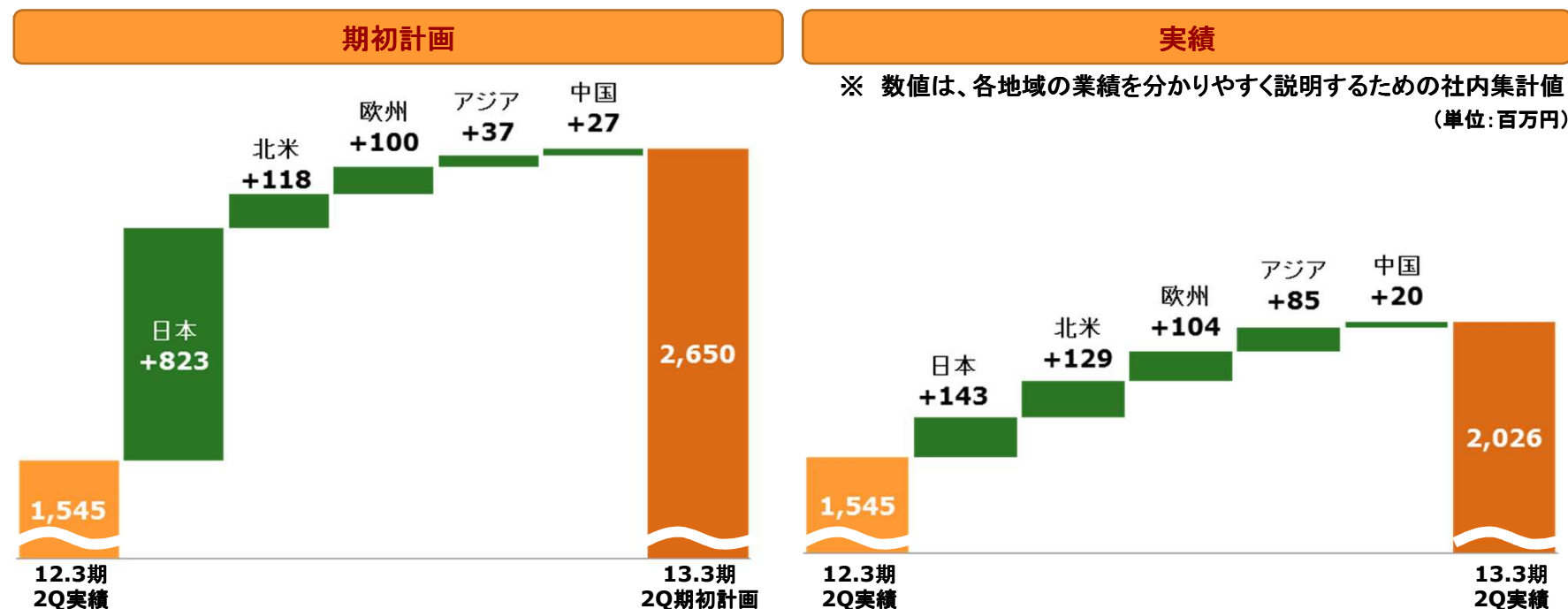
	2012年3月期 第2四半期実績	2013年3月期第2四半期			
		期初計画	実績	計画比	前期比
売上高	89,512	98,500	88,070	△ 10.6%	△ 1.6%
営業利益	1,545	2,650	2,026	△23.5%	31.1%
経常利益	1,873	2,750	2,124	△ 22.8%	13.4%
当期利益	1,027	1,650	862	△47.8%	△16.1%

※ 期初計画値は2012年3月期決算発表時(2012年5月8日)の数値

前期比増益をキープ

2013年3月期 第2四半期 地域別実績(営業利益)

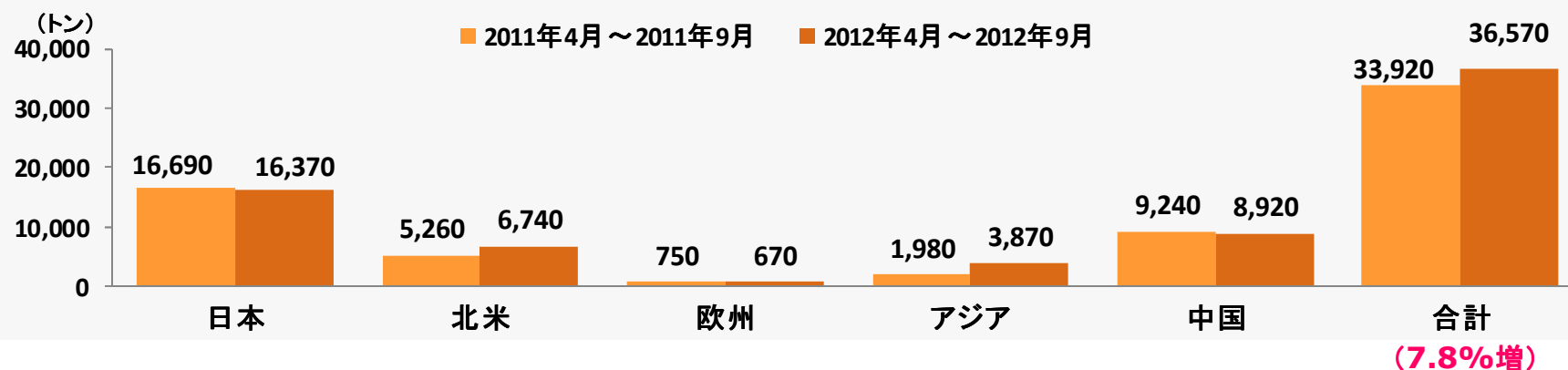
- 日本は自動車関連が好調も、電機・電子、ターミナル事業が低迷。海外は計画通り。



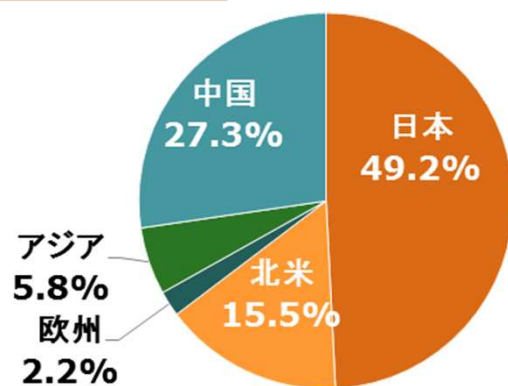
日本	電機・電子、ターミナル事業が低迷も、自動車関連が好調、また、旅行回復が寄与
北米	自動車関連輸出入・JIT配送、生鮮の取扱好調
欧州	構造改革、業務効率化効果に加え、自動車関連が回復
アジア	タイ洪水後の自動車部品などの輸出入が増加
中国	電子部材の航空輸入や白物家電の海上輸出が堅調

航空貨物 2013年3月期 第2四半期 輸出取扱物量

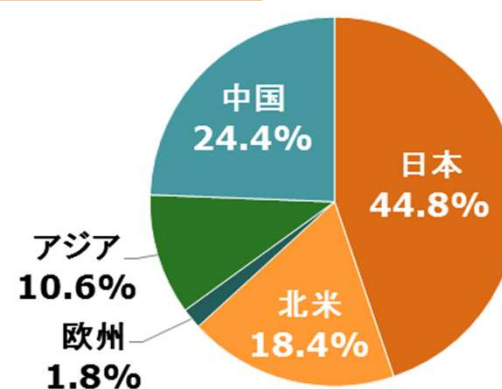
- 日本発は電子部材が低迷も自動車関連が大幅増、北米発は自動車関連・生鮮好調、アジアも自動車関連が順調に推移。中国発は電子部材が伸び悩み。



2011年4月～2011年9月
構成比

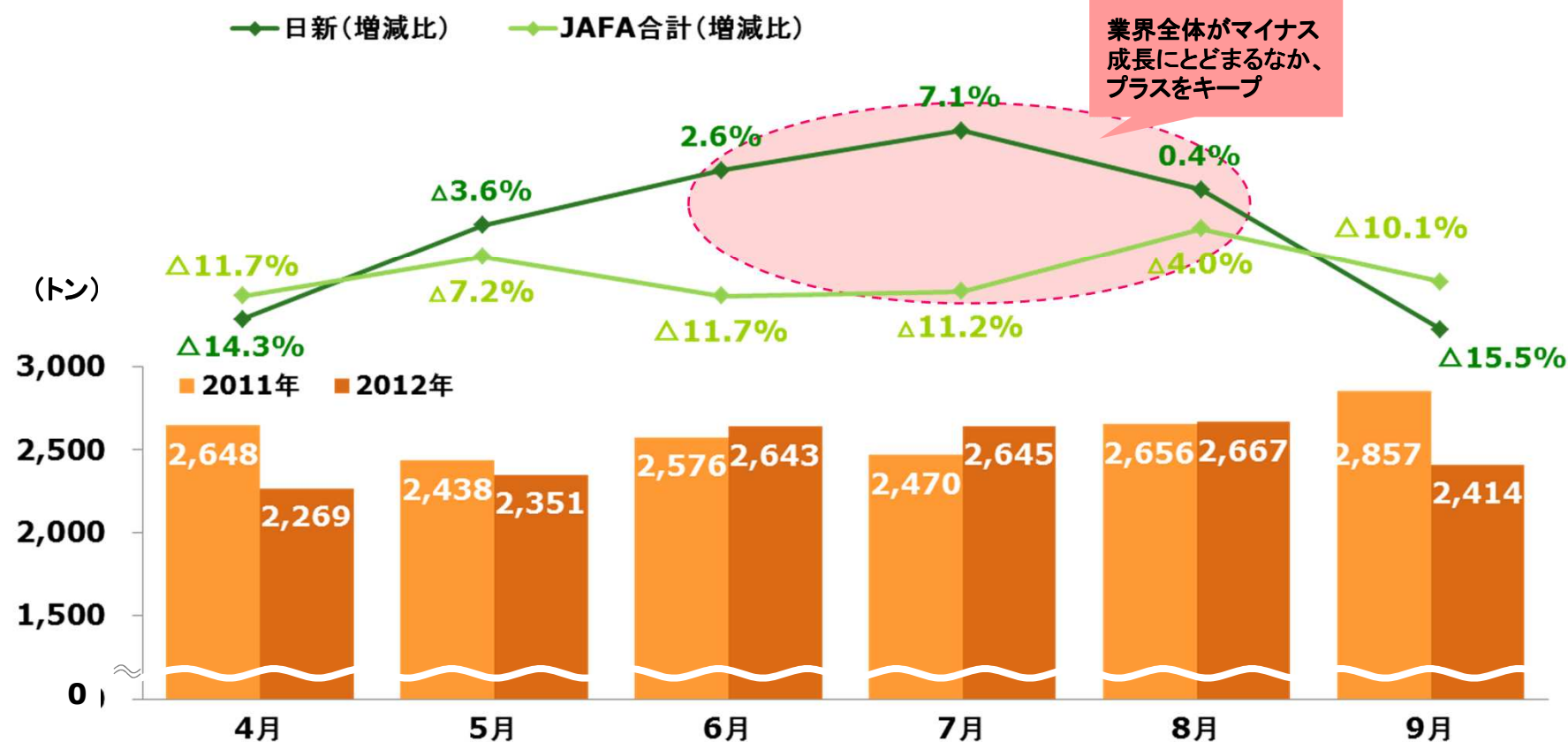


2012年4月～2012年9月
構成比



航空貨物 日本発輸出混載取扱物量 月別推移

- 6～8月はタイ復興需要を取り込み自動車関連・設備が増加、前年同期比プラスで推移。

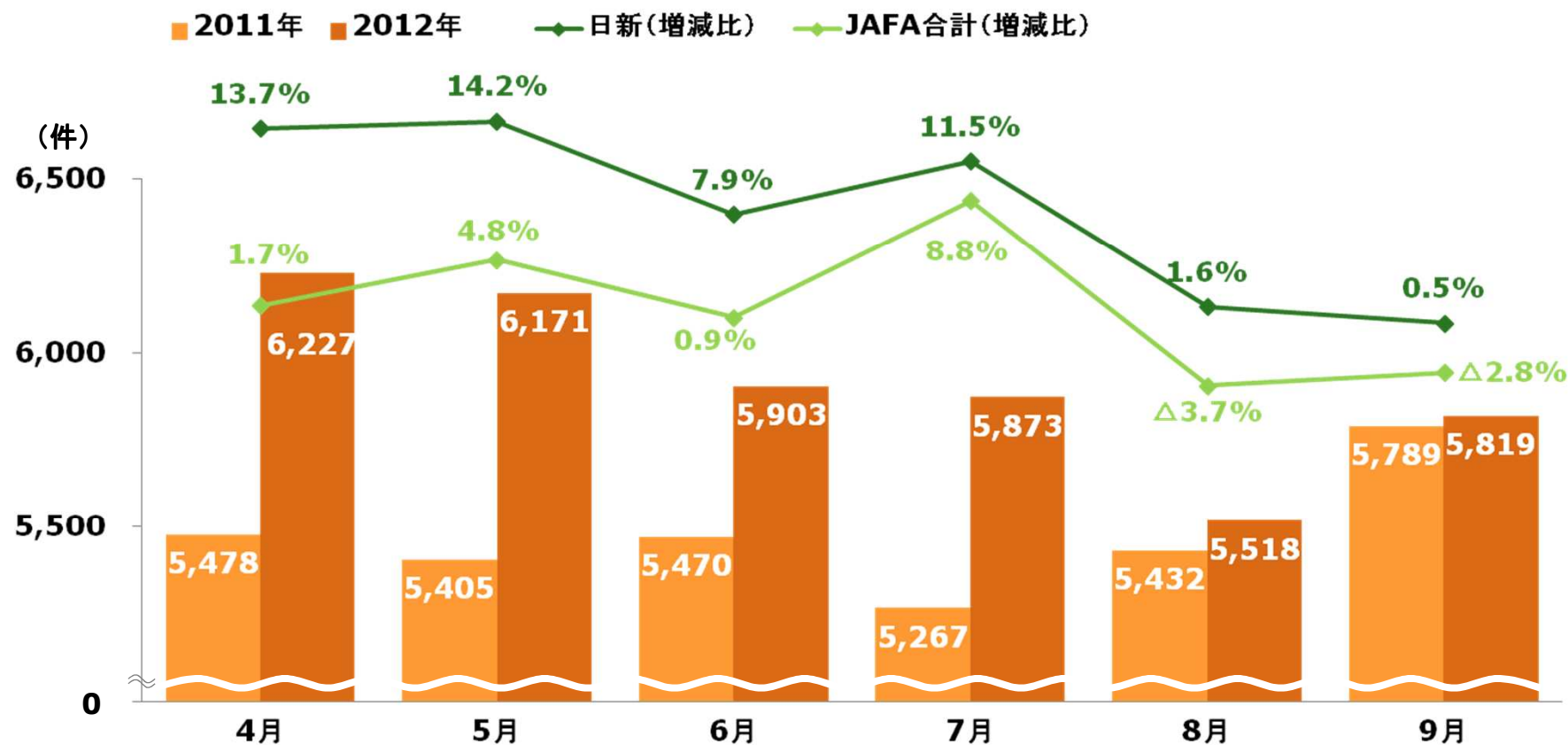


日本発 混載貨物 業界シェア	2011年度上期 (2011年4月～2011年9月)	2012年度上期 (2012年4月～2012年9月)
	3.08%	3.27%

※ 業界シェアは当社推計

航空貨物 日本着輸入取扱件数 月別推移

- 前年同期比プラスで推移。生鮮、アパレル、自動車関連が堅調。

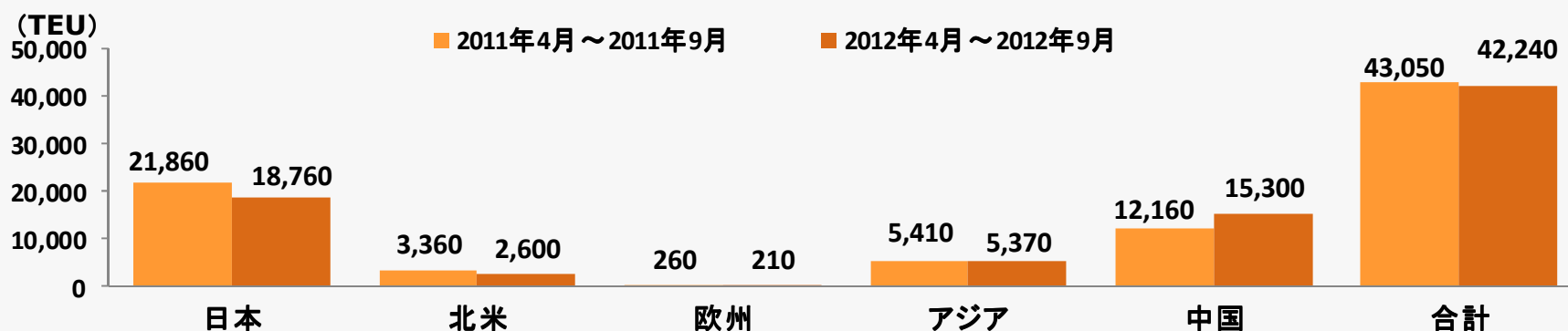


日本着 輸入貨物 業界シェア	2011年度上期 (2011年4月～2011年9月)	2012年度上期 (2012年4月～2012年9月)
	2.64%	2.70%

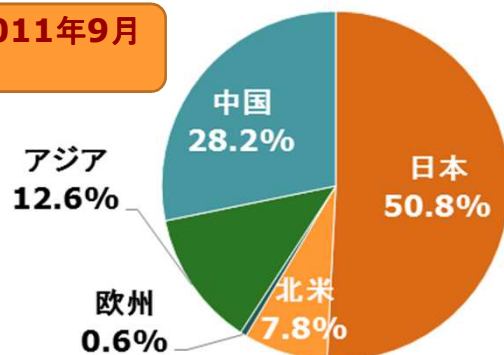
※ 業界シェアは当社推計

NVOCC(FCL) 2013年3月期 第2四半期 輸出取扱物量

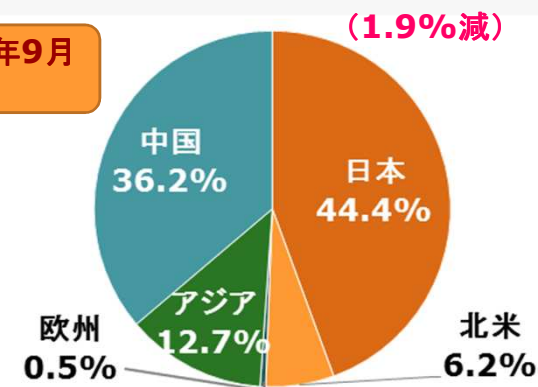
- **NVOCC(FCL)**は、中国発自動車部品、家電が大幅増加。日本発は北米向け自動車関連堅調。



2011年4月～2011年9月
構成比



2012年4月～2012年9月
構成比



※ TEU (Twenty feet Equivalent Unit): 20フィートコンテナ換算個数

日本発 米国向け 業界シェア	2011年度上期(2011年4月～2011年9月)	2012年度上期(2012年4月～2012年9月)
	5.32%	5.55%

※ 業界シェアは当社推計

2013年3月期計画

2013年3月期 通期計画策定の前提条件

期初想定(2012.5)

- ▲自動車分野の需要増
- ▲スマートフォン関連電子部材の需要増
- ▲復興需要による住宅設備・建材の輸入増

- ▼自動車の現地生産拡大
完成車輸出の減少
- ▼円の高止まり
輸出の減少
- ▼価格競争の激化
- ▼欧州景気の低迷

2013年3月期 予算策定レート
1\$=¥80

【中長期トレンド】

- ▲製造業の日本から海外移転加速
自動車：メキシコ、東南アジア、インド
- ▲FTA、EPA促進による日本への輸入拡大
- ▲アジア・中国域内貨物の増加

結果

- 米自動車販売好調
- 荷動き停滞
- 製材・合板輸入堅調

- アジア、北米増産
夏場まで輸出維持
- 円高続く
輸出は減少
- 航空貨物競争激化
- 欧州回復遅れ

1\$= ¥80 → ¥78

下期見通し

- ▲米国での自動車販売好調
- ▲スマートフォン関連部材回復
- ▲海外移転設備増加ーメキシコ

- ▼自動車の現地生産拡大続く
完成車輸出の減少
- ▼円の高止まり
輸出減少、輸入堅調

- ▼中国経済減速、関係緊張化
- ▼電機・電子業界不透明

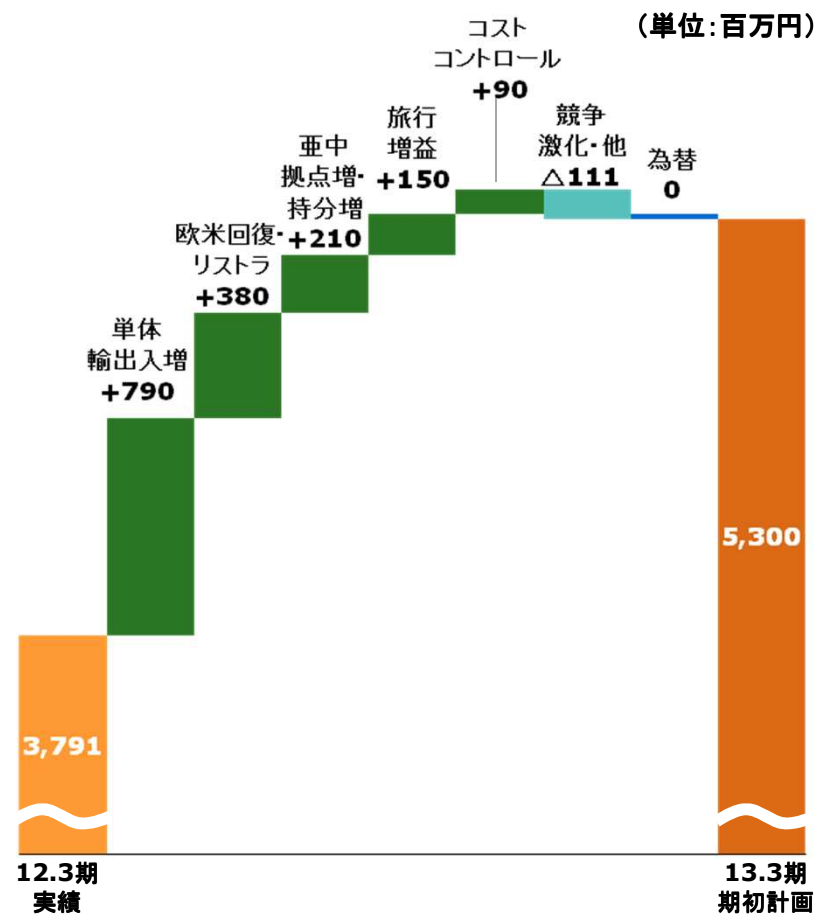
2013年3月期 予算策定レート
1\$=¥78

- 為替換算差(営業利益段階)

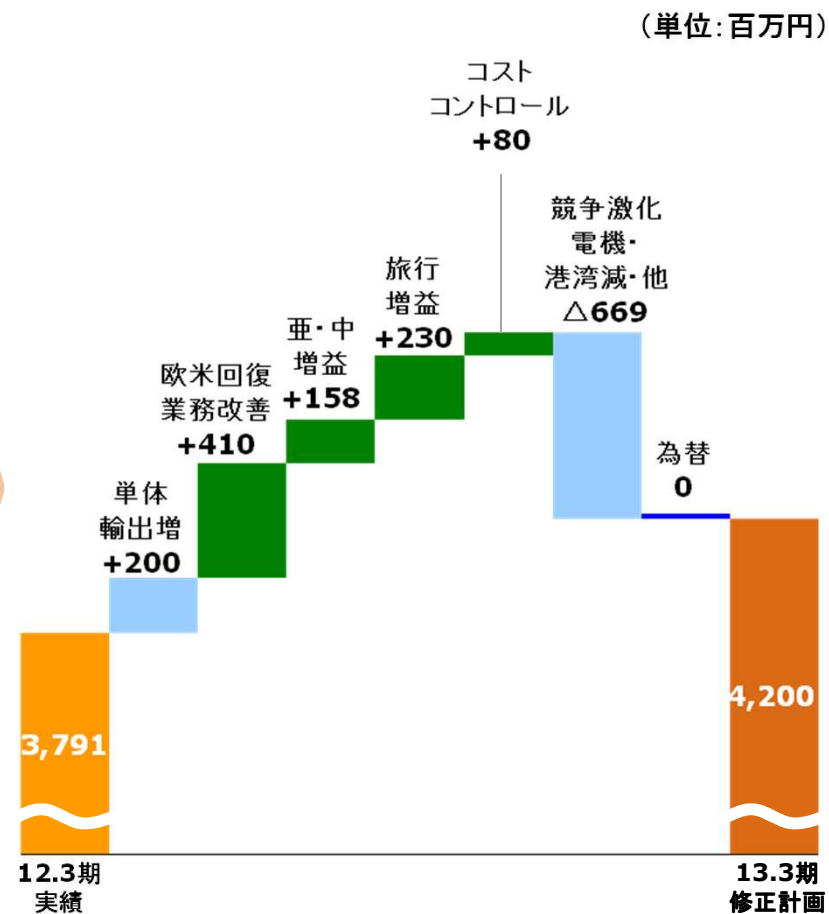
米ドル、ユーロは1円の円高で、
15百万円減要因

2012年3月期 通期計画 営業利益増減要因

期初計画



修正計画



2013年3月期 通期計画 営業利益増減要因

営業利益増減	期初の取り組み施策	上期進捗	今後の見通し	
400百万円  200百万円	● 自動車関連貨物の輸出入取り込み			
	CKD、ベンダー部品、設備機器 (海外移転)	○		日本は完成車輸出頭打ち
				中国向けCKDは減少
				北米、アジアは好調続く
				メキシコ向け設備移転期待
390百万円  0	● その他			
	食品、日用品輸入の取扱い増加	△		年末、新入学の繁忙期
	復興需要の本格化 – 住宅設備、建材等の輸入増	△		堅調、増税前需要
	航空輸送の拡大(中小型液晶)	×		荷動き本格化
	堺LCなど大型物流センターの 収益性向上	△		満床続く

期初想定外の減益要因

△669百万円	電機・電子の取扱低調(ソーラー、液晶TV) ターミナル事業の落ち込み(中国船)	△450百万円
	競争激化・他	△219百万円

2013年3月期 通期計画

- 中国経済、電機・電子業界など先行き不透明ながら、自動車関連貨物に加え、電子部材の取り込み、および、アジアでの営業強化で増収増益を目指す。

(単位: 百万円)

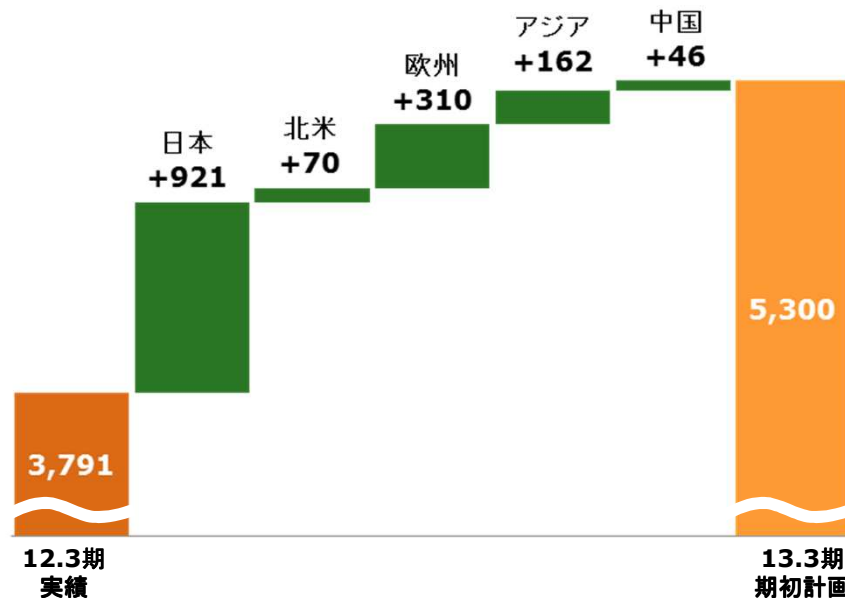
	2012年3月期	2013年3月期			
	実績	期初計画	修正計画	期初計画比 (%)	前期比 (%)
売上高	179,059	197,000	179,800	△8.7%	0.4%
営業利益	3,791	5,300	4,200	△20.8%	10.8%
経常利益	4,119	5,500	4,300	△21.8%	4.4%
当期利益	1,951	3,300	2,300	△30.3%	17.9%

下方修正となるも、前期比増収増益を目指す

2013年3月期 地域別通期計画(営業利益)

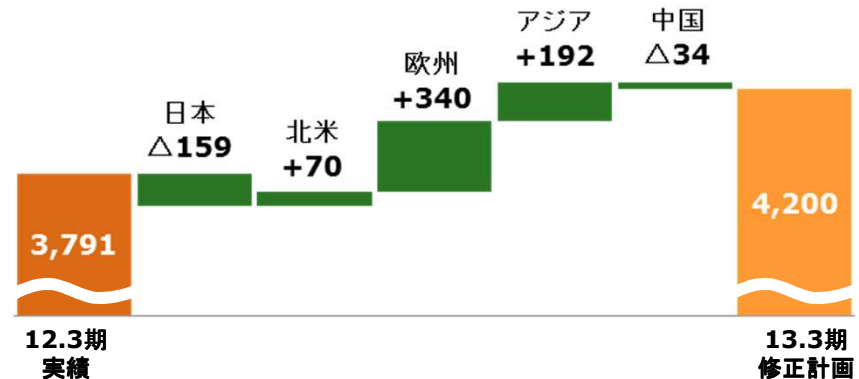
- 北米、アジアは順調な推移、欧州は構造改革効果も、日本は輸出、中国関連が低調。

期初計画



修正計画

※ 数値は、各地域の業績を分かりやすく説明するための社内集計値
(単位:百万円)



日本	下期、中国関連、完成車取扱落ち込みも、自動車関連設備・部品、電子部材の取り込み
北米	自動車関連の順調な推移
欧州	構造改革・業務効率化効果
アジア	自動車関連の順調な推移、二輪車輸送寄与
中国	電子部材の航空輸入、白物家電の海上輸出が堅調も、中国経済減速、日中関係緊張化の影響危惧、

航空貨物 2013年3月期 地域別取扱見通し

- 下期、航空貨物は、日本発は自動車関連・電子部材の取扱い増を見込む。北米・アジア発は順調な推移、中国発は上期比回復。

実績、見通しの単位はトン

仕出地	2011年4月 ～12年3月	2012年4月～2013年3月					
		実績	期初計画 通期	上期実績	修正計画		
					下期	通期	期初計画比 前期比
日本	34,400	40,800	16,370	20,400	36,770	△4,030	6.9%
北米	9,000	9,100	6,740	4,700	11,440	2,340	27.1%
欧州	1,500	1,500	670	700	1,370	△90	△8.7%
アジア	6,700	7,200	3,870	3,600	7,470	270	11.5%
中国	19,200	23,000	8,920	9,300	18,220	△4,780	△5.1%
合計	70,800	81,600	36,570	38,700	75,270	△6,330	6.3%

NVOCC(FCL) 2013年3月期地域別取扱見通し

- NVOCC(FCL)は、中国発の家電、アパレルなどが堅調も、全体では若干の落ち込み。

実績、見通しの単位はTEU

仕出地	2011年4月 ～12年3月	2012年4月～2013年3月					
		実績	期初計画 通期	上期実績	修正計画		
					下期	通期	期初計画比 前期比
日本	40,800	42,000	18,760	18,740	37,500	△4,500	△8.1%
北米	6,000	6,500	2,600	2,700	5,300	△1,200	△11.7%
欧州	600	600	210	290	500	△100	△16.7%
アジア	11,100	12,500	5,370	5,330	10,700	△1,800	△3.6%
中国	26,500	29,000	15,300	13,200	28,500	△500	7.5%
合計	85,000	90,600	42,240	40,260	82,500	△8,100	△2.9%

中期経営計画

～ 中期経営計画2年目 “種まき”から“育成”へ～

第4次中期経営計画に対する考え方

第4次中期
経営計画策定時
(11年5月)

基本方針

- 「グローバル・ロジスティクス・サービス・プロバイダー」として、成長・新興国への注力と新たな成長モデルの開発・育成を目指す

定量目標

- 海外現地法人の売上高拡大1.6倍(260億円→420億円)
- 利益率の向上(2.4%→3.0%) ※目標数値は中期経営計画最終年度(14.3期末時点)

前提条件の
見直し
(11年5月～)

ポジティブ

- 北米・アジアでの自動車需要拡大
- 東南アジア広域網が良スタート

ネガティブ

- 電機・電子業界先行き不透明
- 中国経済の減速、日中関係緊張
- 円の高止まり

現状認識
(12年9月)

基本方針
変更なし

- 5つの重点施策を引き続き実行(27ページ参照)

定量目標
修正

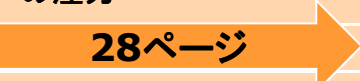
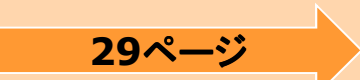
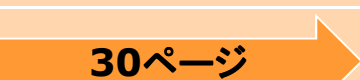
- 中期経営計画最終年度の数値目標は見直し中

重点施策
(～14年3月)

自動車関連の
現地化移転ニーズの取り込み

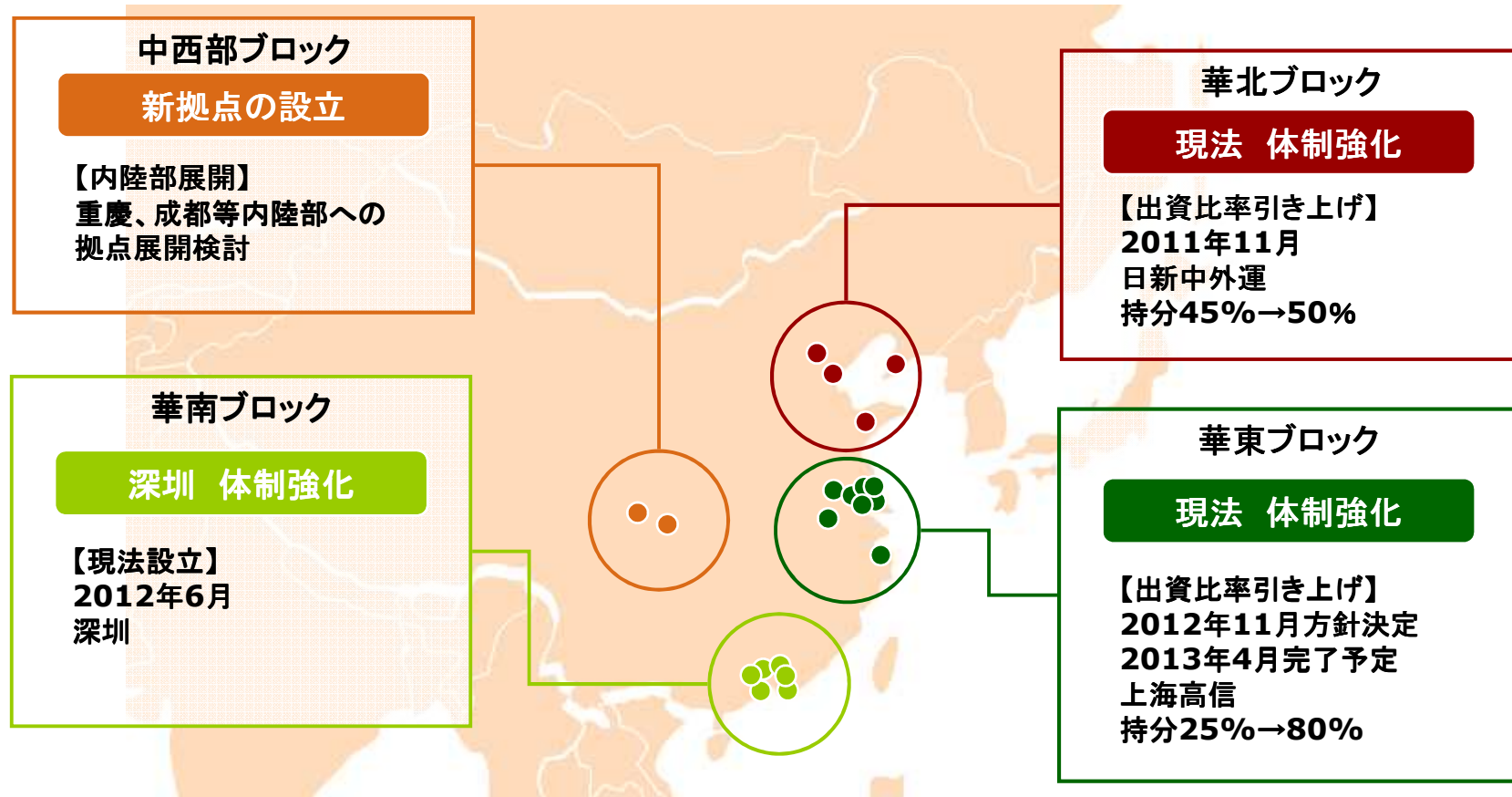
アジア広域物流網の拡充による
新規案件の獲得

第4次中期経営計画 ～ 5つの重点施策は継続 ～

5つの重点施策	取り組み目標	2012年9月進捗
1. フォワーディング事業の強化 ● 航空・海上・NVOCC事業の拡大 ● 自動車・電機電子・化学品分野をベースにした営業強化 ● 重点地域での積極的推進	● 顧客数拡大による営業基盤強化 ● 海外プロジェクトへの対応強化	● 海外での新規顧客増 ● 一貫輸送プロジェクト完遂 ● 海外拠点の営業力アップ
2. 成長・新興国への注力		
● 中国 28ページ 	● 中国内陸展開	● 深圳現法設立、上海高信持分増
● ベトナム 29ページ 	● 大メコン圏広域物流網の構築	● (ベトナム)ブロックトレイン運行開始 ● (ラオス)MLB開始、ラオス日新設立 ● (タイ)低温輸送開始、BCC設立
● インド 30ページ 	● インド国内輸送車両増 ● インド拠点拡充	● インド出資比率、トラック増車(70台体制) ● チェンナイ支店開設
3. 国内事業の整備・強化 ● 国内物流拠点の整備 ● 陸運事業の再構築	● 事業用資産の効率化	● CRE企画室設置 ● ドレー業務の構造改革
4. 新たな成長モデルの開発・育成 ● 危険品物流の拡充 ● 成長分野(食品・医薬・医療、環境関連)への展開・強化	● 危険品混載の強化 ● 医薬品物流への参入	● 定款変更(医薬品事業) ● 医薬品取扱い増
5. 強固な経営基盤の確立 ● グローバル人材の確保・育成 ● グローバルなIT対応力の強化	● 人材育成プログラムを推進 ● グローバルベースのシステム導入	● 社外研修 ● 世界戦略会議開催

中国戦略 ～中国4ブロック体制の確立～

- 中期経営計画最終年に、売上高の3倍増(30億円 → 90億円)を目指す。



東南アジア戦略 ～ AFTA対応広域物流網構築 ～



大メコン圏広域物流網

ベトナム

- カーワゴン(四輪車輸送)、ブロックトレインの運行拡大

タイ

- 2011年11月タイヨコレイと合併会社ベスト・コールド・チェーン設立
- 低温輸送サービスを提供開始

タイ・バンコク～ベトナム・ハノイ

- 2012年2月ラオスに合併会社設立
- メコン・ランド・ブリッジサービスを提供開始

シンガポール～タイ・バンコク

- シンガポール・マレーシア・タイ間でクロスボーダー輸送サービスを提供中

シンガポール・マレーシア倉庫施設拡充

- 2013年9月シンガポール新倉庫稼働予定
- 2013年11月マラッカ新倉庫稼働予定

インド戦略 ～ 拠点ネットワークの拡充 ～

事業基盤の強化

インド日新出資比率引き上げ

- 2012年11月
持分51% → 95%

トラック輸送サービスの強化

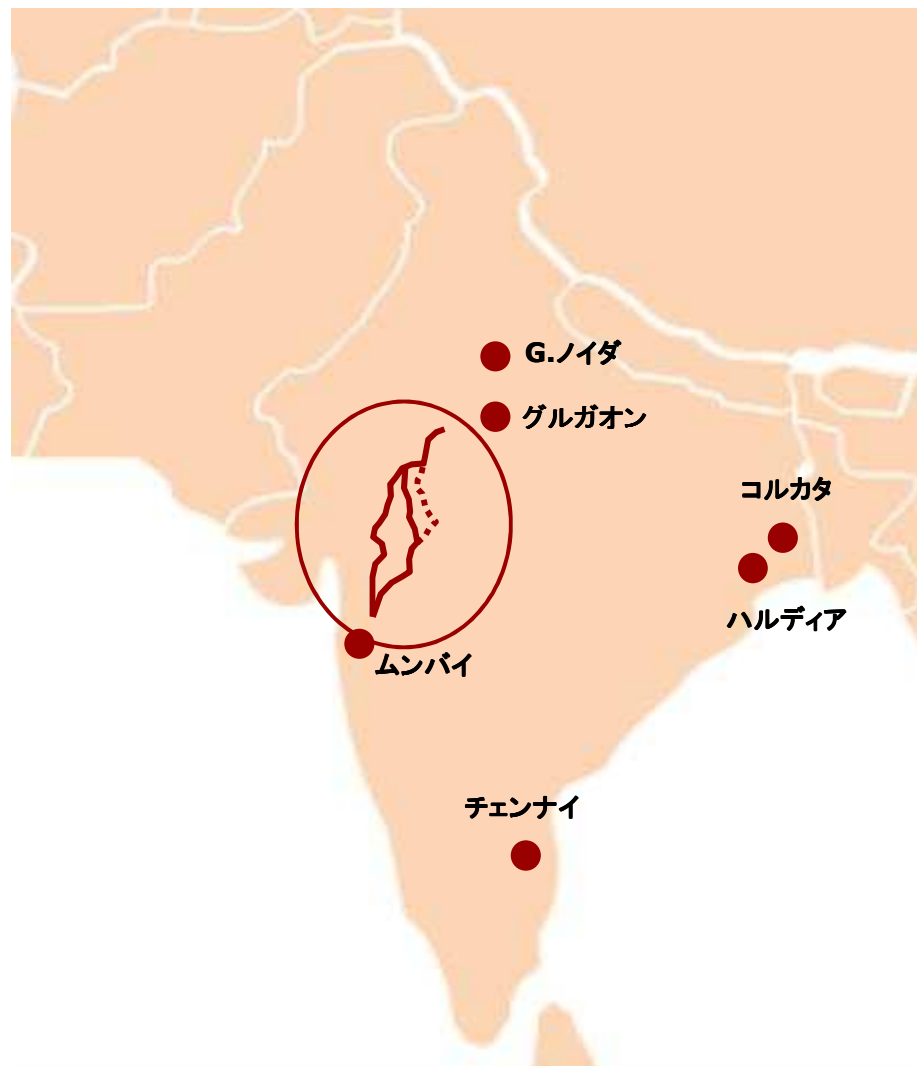
- デリー地区から南部各都市を結んだ
配送サービスを提供(自社車両70台)

インド拠点網の拡充

- チェンナイ支店開設

フォワーディング業務の強化

- 自動車産業を主ターゲットに、NH8地
域およびチェンナイなどでのフォー
ワーディング業務に注力



メキシコ ～ 自動車産業向け支店を設立 ～

メキシコ中部物流網の確立

支店設立

- 2011年11月、メキシコ日新セラヤ支店設立

自動車産業向け

- 自動車産業をターゲットに、フォワーディングサービスを提供中
- 2013年1月、ロジスティクスサービスを提供予定

JIT対応倉庫

- 2013年1月、シラオ倉庫稼働
- 2013年2月、第1セラヤ倉庫稼働
- 2013年11月、第2セラヤ倉庫竣工(自社倉庫)稼働予定

最適物流

- 工場物流への参入、およびトラック・鉄道等各輸送モードを駆使した最適物流の確立・提供を目指す



本日の決算説明会のまとめ

第2四半期は、計画未達なるも 前期比営業・経常増益を達成

- 2013年3月期第2四半期は、当初期待した電子部材の荷動きは停滞したが、日本、海外ともに自動車関連貨物の取扱いが順調に推移し、欧米、アジアの収益回復に加え、旅行事業が寄与
- 結果、期初計画は未達ながら、微減収、営業利益・経常利益増益
- 当期純利益は、環境対策費、株式の減損など特別損失の発生により減益

通期計画は、前期比増益を見込む

- 2013年3月期は、電機・電子業界の先行き、中国経済の減速、日中関係の緊張などが危惧されるが、自動車関連貨物の順調な推移、電子部材の回復、旅行事業の伸長に加え、経営効率化の効果により、増収増益を見込む

第4次中期経営計画を見直し

- 第4次中期経営計画は、当初想定が大きく変わり、見直しに着手

中国物流の現状

中国物流の現状について

一般的に伝えられていること

輸出入の荷動き

不売運動の影響は、ピークを過ぎ、
ややスローダウン傾向

倉庫

滞留在庫が増加

税関検査

貨物の引き取りの遅れが顕在化

今後の影響

中国物流への影響が深刻化
中国物流が停滞

実際の状況

自動車

ノックダウンや部品などに影響が出るまでリードタイムがある11月以降は減産の影響が出ると予想するが、部品輸出でカバーする。

家電

反日の影響が出るとしても、一時的なものであり、日本製品の販売量には大きな影響は出ないと予想する。

入出庫量が減ると収入的には厳しいが、現状は大きな影響は出ていない。

ほぼ影響なし。理不尽なストップはなかった。

当社業務への影響はそれほどではなく、アジア域内での物流が中国を含め活発化する傾向であり、減少分はそれらの業務拡大に注力していく。

世界のどこまでも、運びます



充実の海外ネットワークで、
最適物流を提供する
「日新」です



株式会社 日新

NISSIN CORPORATION

〒102-8350 東京都千代田区三番町5番地
TEL. 03-3238-6666 FAX. 03-3238-6638

URL : <http://www.nissin-tw.co.jp>